

## 気候変動に対するレジリエンス

ー水、エネルギー及び食糧安全保障という多角的な視点から議論ー

国際協力機構（JICA）は、6月2日9時30分より、JICA横浜にて、ドイツ国際協力公社（GIZ）と、気候変動に対するレジリエンスー水、エネルギー及び食糧安全保障の視点からーをテーマにサイドイベントを開催しました。アフリカからはブルキナファソ共和国のウエドラゴ水・衛生大臣が登壇しました。主催者代表として JICA から荒川理事、GIZ よりフィエルク保健アドバイザーが登壇した他、東京大学の小池教授、水資源・リスクマネジメント国際センターの廣木研究監、FAO のカンパニョラ農業生産部長、国際 NGO であるウォーターエイドよりメンギスツ地域アドボカシー部長が発表者またはパネリストとして登壇し、気候変動がアフリカの水資源にどのような影響を及ぼし、それに対してどのような適応策をとるべきかについて議論しました。



アフリカにおいては、気候変動が水資源に及ぼす影響が大きく、今後洪水や干ばつの深刻化が予測されています。水資源は飲料水だけでなく食糧生産や発電にも使われ、飲み水、電気、食べ物という人々が生きていく上で欠かせないものの源になっています。気候変動のもと、この貴重な水資源の安定性が脅かされる中で、アフリカ各国がどのように対応力（レジリエンス）を高め、それを国際社会がどのように支援していくべきかを議論するために、このサイドイベントは開催されました。

基調講演として GIZ のフィエルク保健アドバイザーより、ドイツ政府が推進する「水、エネルギー及び食糧安全保障の統合アプローチ」が紹介され、相互に深く関連する3セクターを包含した取り組みの必要性が示されました。また東京大学の小池教授からは、気候変動がアフリカの水資源に及ぼす影響の大きさと、これらを精緻に予測するための地球観測の強化及び科学者と実務者の連携を強め、科学の成果を行政に的確に反映していくことの重要性につき発表がなされました。これに続くパネルディスカッションでは、ブルキナファソ国のウエドラゴ大臣から、同国の水資源も気候変動の影響を受けて変化しつつあることが報告され、水資源に関連するセクターが連携してこの問題にあたるべきとの考えを示されました。FAO のカンパニョラ部長及び WaterAid のメンギスツ部長からは、それぞれ食糧安全保障の確保と水と衛生へのアクセス改善の観点から、他セクターとの連携をどのように強化していくかが提案されました。議論の最後にモデレーターの廣木研究監より、本セミナーをきっかけとして、水資源に関連するセクターを巻き込んだ包括的な議論がさらに活発になされるよう、期待が表明されました。

今回、アフリカの閣僚と GIZ 及び JICA という援助機関、国際機関の FAO、NGO のウォーターエイド、さらには研究機関である東京大学という多様な参加者が一同に会してそれぞれの立場から

## 【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

率直な議論を行った結果、気候変動の下でアフリカの水資源がいかに脆弱であるかが認識され、水供給や食糧生産といった人々の生存に不可欠な経済・社会活動が、脆弱な水資源という共通の土台に拠っていることを確認した上で、個別の問題解決ではなく、水に関わる農業、エネルギー等の関連セクターも交えて包括的に取り組んでいくアプローチが不可欠であることが認識されました。GIZとJICAは、この議論の結果をそれぞれの援助戦略に反映するとともに、国際会議の場で積極的に発信し、アフリカの水問題の解決に貢献していきます。

### ■本イベントの登壇者

#### 【開会スピーチ】

- ・荒川博人 JICA 理事

#### 【パネリスト】

- ・マムナタ・ベレン・ウエドラゴ ブルキナファソ国水・水利・衛生省大臣
- ・小池俊雄 東京大学教授
- ・カンパニョラ FAO 農業生産部長
- ・ベツレヘム・メンギスツ ウォーターエイド東アフリカアドボカシー部長
- ・須藤勝義 JICA 地球環境部次長

#### 【モデレーター】

- ・廣木謙三 ユネスコ水災害・リスクマネジメント国際センター研究監